

幣舞橋周辺に特急 ターミナル移転を

まちネットらと意見交換

【釧路】北大大学院で
建築都市空間デザインを
専攻する7人は、演習の
一環として作成に取り組
んでいる釧路市のまちづ
くりプランの方向性をま
とめた。17日に釧路キャ
ッスルホテルで開いた中
間報告会で、前回懇談し
た釧路根室圏まちづくり
しネットワークフォーラ
ム（宮田昌利座長）のメ
ンバーや釧路市の職員ら
に、特急ターミナルを幣
舞橋付近まで引き込むな
どの大胆な案を伝えた。

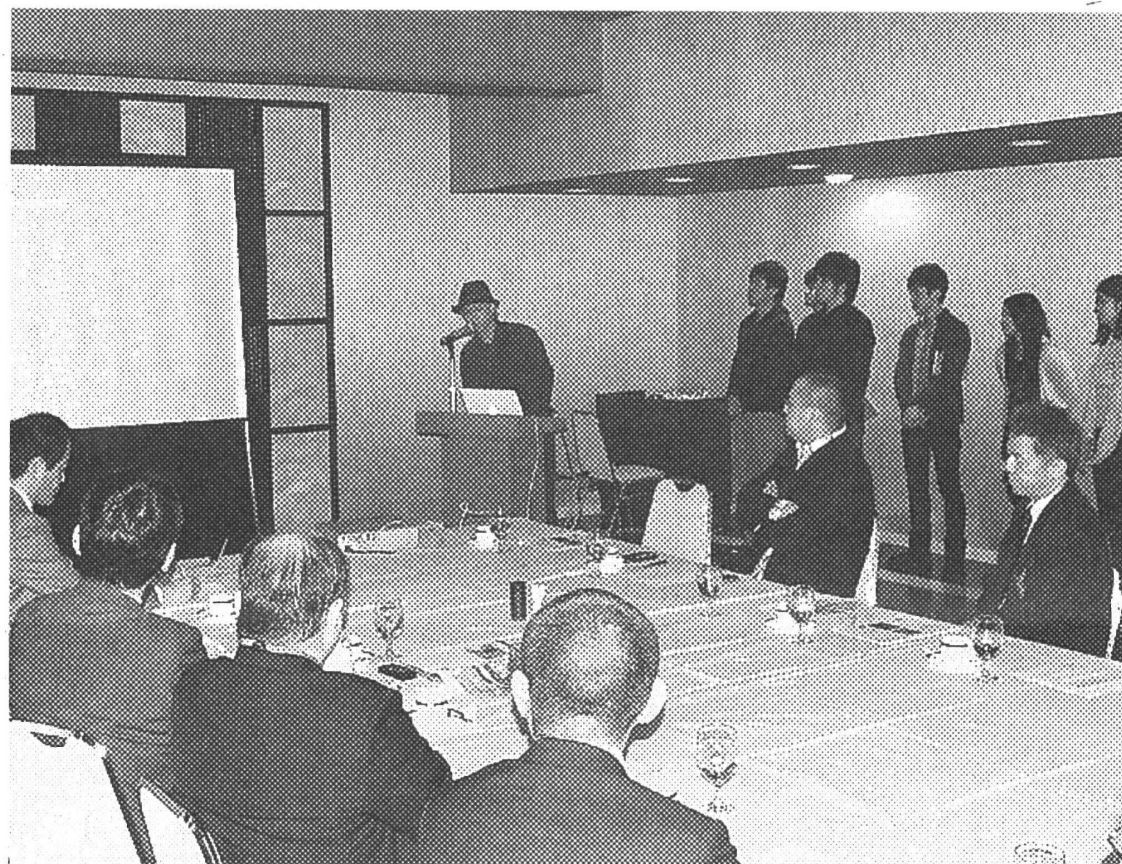
学生たちは、釧路の繁
栄を支えてきた釧路川河
口部にこそ釧路らしさを
感じる景観があると捉
え、幣舞橋を中心として
駅側に向かう北大通エリ
ア、河口部右岸の耐震バ

ースエリア、河口部左岸
の入舟エリア、上流側右
岸の末広エリア、上流側

北大院生が釧路市のまち づくりプランに取り組む

左岸の大川町エリアの5
ブロックに分けたまちづ
くりを提案した。

北大通エリアでは、釧
路駅を西寄りに移して北



大通の西沿いに高架を設
け、特急ターミナルを幣
舞橋たもとまで引き込む
という大胆な計画を披
露。「18万人の人口規模
では、北大通すべてのに
ぎわいを維持することは
できない」として、ター
ミナルに近い川寄りを商
業・宿泊ゾーン、駅寄り

ターミナル移転など大胆
な方向性を示す学生たち

を大学・緑化ゾーンに分
割。大学・緑化ゾーンで
は、空き店舗などを活用
し、医療系や環境系大学
の誘致や、周辺大学のサ
テライトキャンパス設置
などを検討するとした。

末広エリアでは、飲み

屋街と川の距離感を生か
すため、国道沿いに駐車
場を確保して河畔の駐車
場を広場化。店舗は川に
向かってオープンな立面
とし、低層に抑えること
でエリア全体と川の結び
付きを強めるとともに、
日中1人でのおんびりする
こともできる空間とす
る。

港の歴史を感じさせる
古い倉庫群が残る耐震バ
ースエリアは、倉庫群の
リノベーションやパブリ
ックアートの配置などで
川や海とともに生きてき
た釧路の歴史や文化を感
じさせるエリアに再生。
入舟エリアには漁船や
市場、漁協などを集積し、
漁港としての景観を強
調。デッキなども整備し、
平日はゆつくり過ごせる
場所、休日は人の流れや
滞留がおこる場所に生ま
れ変わらせる。

大川町エリアは、河口
の景観を生かした住環境
ゾーンとし、グループホ
ームやホテル、民宿、マ
ンションなどを配置。施

設間をデッキや屋根など
でつないで中間領域を生
み出し、人々の交流を促
進する。

フォーラムメンバーや
市職員からは「釧路川は
大きな財産だとあらため
て気付かされた」「既存
の都市計画などがこびり
ついているわれわれから
は出てこない発想」など
感嘆の声が上がった。

北大大学院の森傑教授
は「都市は時代とともに
構造が変わっていく。
『昔にぎわっていたから』
というノスタルジックな
思い入れだけで無理やり
その機能を維持しようと
するのは間違い」と情緒
的な中心市街地活性化論
を一刀両断。「北大通が
経済的中心を担い続ける
ことは無理でも文化的、
社会的中心に生まれ変わ
ることは可能。どう転換
すればまち全体が豊かに
なるかを考えていかなけ
ればならない」と主張し
た。

さらにプランを具体化
させた学生たちの最終報
告会を、2月中旬～下旬
ごろ市民にもオープンな
形で開く方針だ。

地域の
ニュース
最寄りの支社局
までご一報下さい

北海道建設新聞
2011年1月19日（水）